

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人の思いを大切にしたい理念を掲げている。	○ 各ユニット単位に置いて目標を掲げ実践しています。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の勉強会等に理念を復唱したり、日々の業務においても理念を共有しながらケアにあたっている。	○ 職員一人ひとりが、問題、目標を自由に出し合い理念を構築し、共有しながら日々取り組み、新たな目標を設定するようにしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には面会時や家族会のときに伝え、地域には運営推進会議、イベント時に理解していただくよう取り組んでいる。	○ 【年間行事】 節分、ひな祭り、花見、母の日、夏祭り、敬老会、地域祭り、クリスマス会等 入居者様ご家族様、地域の方々と一体となり取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時(見守りパトロール)や各催し時に声掛け合ったりしている。	○ 「見守りパトロール」を実施しており、小学生、地域住民、ボランティアの方々と交流を深めてはいるが、気軽に立ち寄ってもらえるまでではないので、声掛けしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会しており、地域の方が、唄、舞踊などを披露して下さったり、地区の遠足、敬老会に招待して頂いたり、地域祭りにおいてはホームまで御神輿を担いで来ていただいたりして交流を深めている。	○ 今年度より、認知症サポーター養成講座を実施していくことで、より交流が深まればと思っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	散歩の傍ら「見守りパトロール」を実施することにより、地域の安全・安心な暮らしが継続されるよう貢献している。	○	今年度、認知症サポーター養成講座を実施することで、事業所の力を活かした地域貢献に結び付けていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を実施することにより、「気づき」が生まれ、認知症介護の理念を振り返る機会としている。	○	外部評価の結果に関しても、全体会議で報告し、改善計画を立てて実施し、サービスの質向上を図っていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施しており、参加者からの質問、希望、要望等を受け入れサービスの向上に活かしている。	○	今年度から、門川町社会福祉協議会さんと協働で認知症サポーター養成講座を実施して行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	制度の問題等、常に連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。	○	今年度は運営推進会議の出席が悪かったように思われ、今後、開催曜日等検討していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	活用されている方はいるが、理事長とケアマネが対応するので、他の職員は学ぶ機会をもっていない。	○	他の職員にも全体会議等で、勉強する機会をもうけ、ご家族には家族会のときに情報提供を行っていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は利用者様が自宅でも、ホーム内においても虐待がないよう、注意防止に努めている。	○	今後も勉強会や全体会議等で高齢者虐待防止法に関する理解を高めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、利用者様・ご家族に事前に書類をお渡しし、当日はそれを基に時間を十分にとって説明を行うことで理解、納得して頂いている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアの中で、利用者様の意見、要望等に耳を傾け、職員間で話し合い対応している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者様の生活状況、健康状態、金銭管理等においては、電話連絡、面会時、また、なごみだより等で情報提供している。	○	職員の退職、異動等報告が遅れる状況にあるので、そのつど報告していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入り口に意見箱を設置し、意見、不満等を書いて投函して頂いたり、面会、運営推進会議の中で、希望、要望等伺い運営に反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時、毎月の全体ミーティング時に意見、提案を聞いて運営に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	シフトに沿っての勤務体制なるも、利用者様の生活状況、身体状況(急変)に合わせて柔軟に勤務体制を整えている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動、離職を抑える努力をしているが、人材が定着しないのが現状であり、今後の課題である。	○	離職や異動がやむを得ず発生した場合は、引継ぎを慎重に行い、ご本人やご家族が不安に陥らないような配慮を行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修やその他認知症ケア研修等には、積極的に参加し、介護知識・技術の向上に努めている。また、毎月の勉強会においては、当番で担当を決め自ら考える機会を設けるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会しており、研修会等で交流を図ったり、他施設に見学に行ったりして、サービスの向上を図るよう意識している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	各職員とコミュニケーションを積極的に図り、心身の状況などを把握するよう努めている。また、月1回ミニバレーを行い、温泉に入って気分転換を図っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者も毎日現場に来て職員の勤務状況を把握するように努めている。また、職員の努力や成果も把握し、資格取得に関しても積極的に支援している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでに、自宅に伺い状況等を十分把握し、入居してから不安、混乱が軽減できるように配慮している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用に至るまでに、ご本人、ご家族等が何を求めているのか十分に話を聞き、サービスがご本人やご家族にとって適切なものか、一緒に考えるように努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、ご本人とご家族が何を求めているのか、その不安を含めて話を聴き、サービスが適切に行えるのか、一緒に考えるように努めている。自施設で困難な場合は他事業所へも積極的に支援するようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の思いを大切に、不安、混乱が最小限になるよう、ご家族と相談しながら、ご本人が安心できる環境を整えるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活(掃除・レク・散歩等)の活動を通じて、利用者様と共に過ごしながら昔のこと、ご本人の経験、知恵など会話の中から学ぶことも多い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にご本人の状況を説明し、スタッフによる対応よりも、かけがえのないご家族が適しているケース等には、共に協力、支援し合い、より良い方向に行くような関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	生活を別にしている、散歩、病院受診、外出等ご家族に協力をお願いしたり、各催しにおいては一緒に過ごせるように同席にしたりして、よりよい関係が築いていけるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人とは、面会や各催し、地域の遠足等において、関係が途切れないようにしているが、「馴染みの場」については、ご家族の協力のタイミングが合わず、実現しにくいのが現状である。	○	ふるさと訪問を今まで何回か実施しているが、今後も時期をみて検討していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士で「塗り絵」を作成したり、掃除、食事の準備、テーブル拭き等を協力しながら行っている。自分から解け込みにくい方にはスタッフが間に入って会話を取り持つように支援している。	○	孤立している時は、スタッフが個別に寄り添い、傾聴し、その人の思いを大切に、その人の思いを自分自身に置き換えるよう心がけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、その後の状況等を尋ね、支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様、一人ひとりの生活歴、経験、趣味等を把握し、ご本人やご家族の希望に沿った暮らしが継続されるよう支援している。	○	チームで一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご本人ご家族から情報収集し、出来る限り入居前の暮らしと変わらない様な生活をして頂くよう支援している。	○	情報収集(生活歴等)が十分とは言えないので、徹底して把握していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の日誌を作成し、一人ひとりの過ごし方を考慮しながら支援している。	○	チームで一人ひとりの一日の過ごし方、心身の状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回のカンファレンスの中で現状の確認と課題、ケアの方向性を話し合い、統一したケアが行えるようにしている。また、ご家族等から要望があった場合は、その都度スタッフと意見を出し合い、満足して頂けるよう努めている。	○	ご本人、ご家族等の意向を十分に反映した、介護計画の充実に取り組んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態に変化がみられた場合は、ご家族の意向を伺い、スタッフと意見交換した上で、計画の変更を行っているが、現状は遅れる傾向にある。	○	状態変化がみられた場合は、直ちにモニタリング、評価を行い、新に課題分析し、遅れることのないようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録、申し送り簿等により、一人ひとりの状態を把握し、情報を共有した介護計画の見直しをしている。		その人の思いを大切に、その人の思いを自分自身に置き換えるケアの統一を図っていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人、ご家族の状況を把握し、要望を受け入れ、ふるさと訪問したり、個別の買い物等に出掛けたり、病院受診に行ったりして柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアの方々が舞踊に来られたり、各イベントにおいては社協、区長、民生委員等の協力による支援が大きい。	○	ご利用者様、ご家族、スタッフ、地域の方々と協同で各イベントの充実を図っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人、ご家族の希望に応じて訪問理美容サービスを利用したりしている。また、運営推進会議時に地域包括ケアマネ等からアドバイスして頂いている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今年度、地域包括支援センターと協働で認知症サポーター養成講座を実施する予定である。また、権利擁護も2名お願いしており、いろいろと支援して頂いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人、ご家族の意向を尊重して、適切な医療を受けられるように支援している。また基本的には病院受診はご家族対応としているが、緊急時等、ご家族が行けない時は、職員が代行している。	○	ご家族で病院受診対応する時は、看護師が情報提供書を作成し、主治医に伝えて頂くようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関が認知症に詳しい精神科であり、必要に応じ、相談、受診、診察、治療を受けられるよう支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を7名配置しており、一般状態の変化時とか緊急時等には連携は図り、利用者様の健康管理に努めている。	○	介護職員も積極的に日頃の健康管理に気を配るように意識づけしていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院される時は、ダメージを最小限に抑えるため、ホームでの心身の状況、生活状況等を報告し、安心して入院生活が送れ、又、早期に退院できるよう、病院との連携、ご家族との連絡に努めている。	○	入院中は、スタッフが励ましの色紙を持って行き、情報交換・収集を行い、落ち着いて安心して静養できるよう努めていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期生活支援に関する覚書を説明し、ご本人の意向、ご家族の希望等を伺い、重度化した場合や終末期のあり方については、その都度、ご本人やご家族、また医療機関等とカンファレンスを行い、全員で方針を共有するよう努めている。	○	入居時に覚書に署名して頂くが、決定ではないので、その後も随時話し合いを継続することで、方針の確認、共有化を徹底していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ご本人やご家族の意向を踏まえ、医師や職員が連携して、安心して納得した最後が迎えられるように、随時意思を確認しながら取り組んでいる。	○	重度化した場合や終末期のあり方については、できるだけ早い段階から、ご本人やご家族、その他医療機関等とカンファレンスを行い、その後も随時話し合いを継続することで、方針、意思の確認、共有化を徹底していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	不安・混乱が起らないよう、ご家族やご本人に関わるケア関係者と十分な時間をかけて話し合いや情報交換を行い、スムーズに住み替えができるよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりのプライバシーを尊重し、職員一人ひとりが思いやりの心、言葉を持って日々接している。また、カルテ等の個人情報の取り扱いに注意し、秘密保持の徹底を図る。	○ 利用者様の誇りやプライバシーを損ねない対応を徹底し、個人情報の漏洩防止、秘密保持の徹底を図ってきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で一人ひとりに合わせた声かけをして、利用者様自身が決定する場面をつくっている。意思表示が困難な方にも表情・行動を読み取り、利用者様の思いに沿った生活ができるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れに沿って対応しているが、無理強いはしないで一人ひとりのペースを大切に散歩、買い物等、柔軟に対応している。	○ その日、その時のご本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある援助を行うようにしていきたい。表出能力の低下が見られる人に対しては、その人の思いを感じとり、満足いくケアを行ってきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご自分で身だしなみが出来ない方は、スタッフが一緒に選んでいる。理・美容院を希望する方はスタッフが送迎し、ご自分の好みに合うようにしてもらっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作成しているが、その方の嫌いな物がある時は、別の料理を作って対応している。食事の準備は、椅子に座ってでもできることやテーブル拭き下膳等してもらったりしている。	○ その時期の食材を使用したメニューで、季節を感じてもらえるようにしていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人が望むように支援しているが、今のところ、たばこ、お酒の要望がないのでお出ししていません。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	非言語的なサインを読み取り、適時トイレに誘導したり、サインを読み取りにくいケースは排泄パターンを把握した上で随時誘導している。	○	排泄の失敗はご本人の自尊心が非常に傷つくことを、いつも考え支援していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は一応決めているが、くつろいだ入浴が出来るよう支援している。入浴を拒む方には、タイミングを見計らい促し、それでも変わらない場合はご本人の意思を尊重するようにしている。	○	午後に入浴としたいが、病院受診等があり、今後検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一日の流れに沿って過ごしていますが、申し出があったり、休息が必要な方、雨戸を閉めていないと不安な方等、安心して気持ちよく休息したり眠れるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴を活かし、園芸、畑仕事、草取り、洗濯物干し、たたんだり、また、個別に買い物に行ったりして楽しみ気分転換を図っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前はご自分で少額のお金を持っていないと、不安な方がいましたが、現在は物品購入希望時スタッフと一緒に出かけ、ご自分で支払いを済ませる方もいます。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、ホーム周辺を散歩したり、近くのスーパーに買い物に行ったりして気分転換を図っている。園庭でおやつを摂ったり、畑の様子を見に行き、収穫を行ったりしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見など、おやつを持って出かけたり、病院受診の帰りに兄弟が入所している施設に同行訪問したりしている。	○	ドライブ等、慣れ親しみの場所に行けるよう、ご本人、ご家族等から情報収集し、計画を立てていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状作成をなるべく、ご利用者様からご家族に書いてもらったりしている。電話は自由にかけてもらえる環境にある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族、友人等、気軽に来やすい雰囲気づくりを心がけ、時間制限もなく、都合のよい時間にいつでも来ていただけるような配慮をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが、拘束禁止を把握しており、利用者様の行動を制限したり、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	職員全員が介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解するために、勉強会等で身体拘束をしないケアに取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅欲求、不穏等、利用者様の状態に応じて施錠をすることがあります。	○	利用者様の安全面を考えると、施錠してしまう傾向にあり、その原因は何なのかをスタッフ全員で話し合い、完全開放へとしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	歩行が不安定なご利用者には移動のさい近くで見守りを行い、記録等もご利用者様の近くで行っており、さりげなく全員の所在や様子を把握するよう努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者様の状況を見ながら、注意の必要な物品については保管・管理しているが、管理が過剰になってご利用者様の力が発揮できる機会を奪わないようにしている。	○	ご利用者様一人ひとりの状況に合わせて、注意が必要な物品は何かをスタッフ全員で把握し、保管・管理について確認していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のためにヒヤリハットを作成し、毎月の勉強会、日々の申し送りにおいて看護師、ケアマネ等により、知識を学び、事故防止に取り組んでいる。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎月の勉強会で、看護師が中心となり、応急手当や初期対応等の指導を受け、急変時や事故発生時に備え対応している。	○	応急手当や初期対応を全スタッフができるように定期的に行っていききたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練、通報訓練等、昼夜を想定して実施している。また、その時、地域の消防団の協力も得ている。	○	近隣住民の協力をお願いしていききたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時の課題分析等から、予想されるリスクについてご家族等に説明し共に善後策を検討している。	○	状況の変化に応じて、リスクに関する説明を随時していききたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日利用者様のバイタルチェックを施行し、食事、顔色、排泄等を把握している。変化があれば、速やかに看護師が主治医に連絡、指示を仰ぎ病院受診等の支援を行っている。また、ご家族等にも連絡して連携を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、服薬の目的、副作用、用法等について説明し、医師の指示通りに内服出来るよう支援している。	○	スタッフ全員が利用者様一人ひとりの疾患、薬剤情報について把握、理解できるよう努めていききたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便有無の確認を毎日おこなっており、食事の工夫、水分補給、適度な運動等を心がけている。また、必要に応じて緩下剤の調節を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きの声掛けを行い、利用者様の状況に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した献立を作っている。その方の咀嚼、嚥下力等に応じて食事を工夫し、食事、水分摂取量を観察している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手指消毒、嗽の実施。毎朝・深夜帯にホール手すり等の消毒を行っている。利用者様、スタッフはほぼ全員インフルエンザ予防接種を受けている。	○	スタッフ一人ひとりが、感染症に対する知識を身につけ、感染予防を徹底していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器、器具類は毎日消毒。乾燥を行っている。生もの(肉・魚)を切る時は、牛乳パックを敷き衛生管理に努めている。食材は新鮮なものを業者が搬入している。	○	スタッフ全員に、食中毒予防への意識を高めていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭や玄関周りは季節の草花が植えられており、家庭的で親しみやすい環境作りを心掛けている。	○	近隣の人たちが、気軽に出入りできるよう働きかけていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りを心掛けており、季節に応じて利用者様とほり絵、ちぎり絵等を作成して飾り居心地よく、ゆったりと過ごせるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者様同士、居間で談笑されたり、ゲームをしたり、日によっては一人で寝そべってみたりと、思い思いに過ごして頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で慣れ親しんだ寝具、タンス、椅子等を持ち込まれ、安心して過ごせるような工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、室温調節は適宜おこない、トイレ等には消臭剤を置いたり、散布したりし居心地の良い環境提供に努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全室バリアフリーとなっている。ホール、廊下、トイレ、浴室等に手すりが設置されている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの表示や居室の場所を分かりやすく工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候の良い時期は、毎日のようにホーム周辺を散歩(見守りパトロール)に出かけ、園庭でお茶を飲むなどして過ごしている。	○	中庭の活用を検討していきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当法人では、「地域密着型施設」として、地域と一体となって認知症高齢者を支え、誰もが安心して暮らしやすい地域社会を実現するための拠点施設であり、その方策や行動の具体的内容を発信し、地域の方々と一致協力して推進していくべき立場にあると考える。そこで、①「認知症高齢者とその家族を支える」という視点についての地域住民向け啓発活動の実施。②地域の方々の認知症ケアのモデルとなるような介護の実践。③気軽に立ち寄ることで、上記②の介護手法、また、現状を広く認識して頂く為の開放的な運営に力を入れている。①においては昨年暮れより公民館単位での「認知症の人に対しての接し方講座」を実施。これは今年度より町の社会福祉協議会の協力を得て「認知症サポーター養成講座」に発展、展開範囲も町全体に及ぶ(予定)②については施設入居者にありがちな、笑顔の欠如や地域の人々との関わり不足を解消することで、その人らしい暮らしが送れる一助となるよう、一日の過ごし方の中には下校児童の見守りパトロールや茶話会を設定。全ての対応の基本は「その人を理解し、寄り添う」ことを心掛けている。③については運営推進会議や季節ごとの各種イベントを通じて働きかけを行ってきた。これまでも多くのご参加を頂いてきたが、今後は①の活動ともあいまってさらに促進されるのではないかと考える。